
紙に書かれなかった人生

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紙に書かれなかつた人生

【NZコード】

N8407F

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

新聞専売所にいた経験があり、本当に不思議な出来事が起こりましたなんでもかまわないでの評価を書いていただければうれしいな

一階では印刷屋が数十種類のチラシを玄関に置こうと、けたたましい音とともに引き戸を開けた。

「折り込み機の前まで持つて行つてくれればいいのにやさかい」

従業員高野は老眼鏡の位置を正しながら、曲がり始めた腰を伸ばしながらつぶやく。

一階にある個室寮の一室で、パチリパチリと折り込みを揃える摩擦音を一心に聴いている者がいた。個室はロ字カーブの廊下に四部屋ある。その左端の部屋のベットの上で田辺は、初詣で願掛けでもしてゐるかのように目を閉じ寝そべっている。やがて店長が一階の作業室に出てきて、高野と会話を始めた。田辺はその会話の内容までは分からなかつたが、そのイントネーションや響きから、また自分自身の悪口でも言つているのかも知れないと不安になつた。

「高野さんから見れば俺は配達スピードこそ早いが挨拶すら出来ないでの、購読者は別の新聞に替えるとカンカンなんだと。神田を配達するのも大変なもんだ」

田辺は苦虫を噛み潰したような顔になつた。

やつと六畳はあるぐらいの個室には、大きな窓から年末の冷風が押し寄せて来る。隣のパソコン問屋は、また軽トラックから輸入パソコンを降ろし始めたらしい。こんな夜は独り暮らしをしていることが、安っぽい画用紙に人生の底辺を描いていくようで悲しくなる。

田辺の心の搖さぶりを東京のど真ん中が嘲笑つてゐる。普段は氣難しい神田の街にもクリスマスツリーが装いをきらめかせていた。田辺は部屋の中を見回し、現実を確かめようとした。そのとき壁と天井との接点に、茶羽ゴキブリが止まっていた。体長一・五センチはある。寒さのためかあまり機敏ではないらしい。夜行性なので角

の暗闇を好んだ。田辺はすぐさま枕元に飾っていたクッショーン・ボールを投げてやうづかと思った。ちょうどビーチの頭部が棚になつてゐるので、マシュマロのような柔らかく、いいゴムの匂いを醸し出すやつは重宝されていた。だが右手の肘を弓のように伸ばそうとした瞬間、彼の頭の中にはなにかしら引っ張るような違和感が支配していた。昨晩脱毛したばかりの人差し指が力を振り絞ろうとしたとき、彼は右手への指令を拒絶した。ボールは無気力に床の上を滑つて行く。

「どうせ殺しても、まだどこからか姿を現すんだ」

田辺は一階で高野の営業成績を叱る店長のだみ声に威圧感を覚えながらも、興味は女のことへ移つた。ちょうど神田の裏道を、O-Lの行列が通り過ぎたからだ。

内気でナイーブな彼は、もちろん今日まで童貞である。

「おい、おまえたち暖房付けてやるからな」

高野のとんきょうな声だった。不信な声で体を起こした感触も忘れないうちに、彼は一匹の害虫の存在が羨ましくなつた。女と手も握ったことがない田辺にとって、自分自身の種を子孫繁栄に残せるやつが羨ましくてならなかつた。

田辺はボールを害虫に向け、一心不乱に投げた。まったく刹那な出来事だ。害虫は不器用な空氣抵抗をかすかな雜音にして、アイザック・ニコートンの発見通り床に永眠した。あんな一寸の魂しか持つていらない対象物に対して、かんに触つていいなんて……。部屋の中の空氣は寝静まりの終着点へ、秒針を滑走させていた。その空氣は田辺自身の若さといつ重圧も、下の階でサービス残業に従事している老体の悔やみも、十把一絡げに包み込んだ。

翌朝四時じごろ、鮮やかなインクの匂いに彩られ朝刊がやつて来た。従業員一同は田辺の姿が見えないのに気付いた。

「あいつまた寝坊だな」

高野は一階に上がりて田辺の部屋を開けた。

そこには田の下に褐色の膜を付け、害虫を探す彼の姿を田にした。

彼の股関には血がしたたるほど流れしており、部屋の中は真っ赤なペンキでリフォームでもしたかのようだった。彼は発狂し自らの性器を去勢させたのだ。一匹の害虫が彼の目の前を這うと、彼は薄笑いを浮かべ、手を合わせ肉親に対して揉むのであった。

高野は彼の姿を見たとたんドアをすぐさま閉め、その事実を抹消しながら階段を降りて行つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8407f/>

紙に書かれなかった人生

2011年1月11日02時43分発行